

【プログラム19：子どもの悩み熟議 ～どんな悩み、誰に相談～】

☆ねらい：思春期の子どもはどんな悩みをもっているか、どのように解決しているかを考えることを通して、親（大人）として子どもとどう向き合えばいいかを考える。

《プログラムの概要》

キーワードの例	悩みと相談相手
時 間	30分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ
準備物	模造紙（広用紙）（グループに1枚）、マーカーペン（各グループに黒、赤、青の3色）
主な活動	①子どもの悩みや相談相手について考える。 ②自分の学生時代の悩みについて振り返る。 ③親の関わり方を考える。 ④グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○中学生、高校生の悩みとしては、容姿、異性、人間関係等に関するものが多い。デートDVや高校進学、中途退学率等の話題を出すときは、新しいデータを用いるとともに、進行役が十分理解した上で、参加者にデータを示す。
備 考 (アレンジ等)	○「どんな悩みがあるか」を考える活動は、付箋紙等を用い、個人作業にすることもできる。
他プログラムとの関連	ステップ（中高生期）編：No22聞いて、聞いて、わたしの悩み～子どもの異性とのつきあい方～

【プログラム19：子どもの悩み熟議～どんな悩み、誰に相談～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。 【1分】 [キーワード] ○悩みと相談相手</p>
27分	グループ	<p>2. 子どもがどんな悩みをもっているかを考える。 【7分】 ○グループで思いっただけ考え、模造紙（広用紙）に書き出す。 ※悩みは具体的に考えた方がよい。 例、太っている、好きな人がいる、友だちとけんかをした部活でレギュラーになれない、成績がさがった</p> <p>3. 悩みの解決方法や相談相手について考える。 【5分】 ○上記2の活動で書き出した悩みの相談相手を考え、分類する。 例：自己解決・・・黒○をつける 友だちに話す・・・赤○をつける 先生に話す・・・青○をつける 家族に話す・・・黒◎をつける</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>相談相手や解決方法は複数あってもよい。</p> </div> <p>4. 自分が中学（高校）生だったころ、悩んだことや相談相手等はどうか振り返る。 【5分】</p> <p>5. 親のかかわり方で大事なことは何か考える。 【10分】 ※子どもの悩みに関連あることで、知りたいこともあわせて話し合ってもよい。 例：デートDVのこと、高校進学と中途退学率等のこと など ○話題になったことを紹介する。</p>
2分	全体	<p>6. まとめ 【2分】 [ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>子どもの悩みにはいろいろある。中学生、高校生になると、今まで以上にまわりを気にしたり、深く悩んだりすることもあるようだ。子ども自身が自分を追い詰める前に相談できる家庭の雰囲気をつくっておくことが大事。</p> <p>子どもが話をしたときは、真剣に聞こうとすることが大事であり、注意すべき点については子どもに遠慮することなく毅然とした態度で接することが大事である。</p> <p>デートDV等、新しい課題も生じているので、親が関心をもつことも必要だ。</p> </div>

〔 活 動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備 考 〕

1. ねらいの
確認

○今日は、「悩みと相談相手」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 悩みについて考える

○まず初めに、今、子どもがどんな悩みをもっていると思うか、グループの皆さんで協力し合って、思いつくだけ広用紙（模造紙）に書き出してください。悩みは具体的に考えてください。例えば、「太っている」「好きな人がいる」「成績がさがった」等です。自分の子どもさんに、悩みはないだろうと思われる方は、一般的に考えると、◆◆な悩みがあるだろうと、考えてください。

・グループの誰か1人が書く係をしてもいいし、ペンを1人1本持って、同時に書き始めてもよい。

3. 親としての
役割を考える

○次に、悩みの解決方法や相談相手について考えてみましょう。今、グループで書き出してもらった悩みの相談相手は誰だと思えますか。それぞれの悩みの横に○をつけてください。自己解決するであろうと思う場合は、黒で○をつけてください。相談相手が友だちだと思う場合は、赤で、そして、先生が相談相手と思う場合は、青で○をつけてください。家族の場合は黒◎をつけてください。相談相手や解決方法は1つとは限りませんので、黒の◎、赤の○と2つになってもいいです。

・活動の説明の時、実際に黒や赤で○をつけるやり方の例を見せた方が、参加者にとって、わかりやすい。

4. 自分の経験を振り返る

○自分が中学（高校）生だったころ、どんなことで悩んだか、また、それは誰に相談したりどうやって解決したりしたか、思い出してください。話せる範囲でよいので、グループの人に紹介してください。

・話せないこと等は話さなくていいことを参加者に伝える。

5. 親のかかわり方を考える

○子どもの悩み、相談相手を考え、自分の経験を思い出していただきました。これからは、思春期の子どもをもつ親として、子どもへのかかわり方で大事なことは何かということグループの皆さんで考えてほしいと思います。話題が難しい場合は、子どもたちの悩みや生活に関連あることで、知りたいこと等でもいいです。例えば、「デートDVという言葉を知りたがったけど何のことだろう。」「高校進学と中途退学について」等です。

・意見の紹介までの時間、グループで考えを出し合う時間を時々知らせると、参加者自身が見通しをもつことができ、効果的である。

○グループで話題になったことやご自分の考えなどを紹介してください。
(いくつかのグループで話題になったことを全体で紹介する。)

・進行役の子育ての経験話や自分自身の体験（自分が学生だった頃の悩みや相談相手等のこと）等をまとめの話としてもよい。

6. まとめ

○子どもの悩みは、友だちや先輩後輩との人間関係のことや異性のこと、成績のこと等いろいろあるようです。中学生、高校生になると、今まで以上にまわりを気にしたり、深く悩んだりすることもあるようです。子ども自身が自分を追い詰める前に相談できる家庭の雰囲気をつくっておくことが大事だと思います。

子どもが話をしたときは、結論を急ぐのではなく、真剣に聞こうとすることが大事です。また、注意すべき点については子どもに遠慮することなく毅然とした態度で接することが親として、大人として大事なことです。

デートDV等、新しい課題も生じているので、親が関心をもつことも必要です。

・デートDVによって女性、女子学生が被害にあたり悩んだりしている現状があることを進行役が知っておくことも大事。